

## 吉野作造のドイツ留学（三）

今 野 元

### 三、留学中における吉野作造の読書

「吉野作造のドイツ留学」研究の一環として、今回は彼の留学日記に登場する書籍を検討する。吉野の留学日記に登場する様々な事実は、彼が留学中に体験したことの全てではなく、書籍にしても日記に登場しないが図書館や書店で手にしたものもあったはずである<sup>1</sup>。ただ吉野は概して几帳面に日記を付けているので、彼が記録したものを概観すれば、彼の読書傾向を知ることが出来る。本論ではまず留学日記に登場する読書関係の記述を抜粋し、これを時系列的に並べる。加えてそれらの書籍について、今回の調査の結果判明した事実を文末註で解説する。なお記述の抜粋に当たり、単に「読書」などとのみあつて書名特定に全く繋がらない叙述は割愛した。また算用数字は、今回用いた『吉野作造選集 一三 日記一』（岩波書店、平成八年）の該当頁数である。

今回判明した吉野作造の留学中の読書傾向を整理してみよう。（一）吉野作造の留学中の政治史研究は、「衆民政」の比較研究を行った小野塚喜平次、西洋の政治思想や現実政治と対決し日本の「國體」の意義を考えた上杉愼吉とは異なり、宗教問題に重心が置かれ、読書もまずはその準備に充てられていた。これはプロテスタントとして現地人と交流した吉野には自然な成り行きであろう。キリスト教研究では吉野はとりわけカトリック教会に興味を示し、一次史料収集

や実地検分にも意欲的で、帰国後の口頭報告+論文「羅馬教皇」で成果をまとめた。これは概ね文化的プロテスタンティズムの路線で書かれたカトリック教会批判である。また吉野はプロテスタンティズムに関しても多くの文献に触れており、ドイツ滞在中に英米系のものも読んでいる。なおプロテスタンティズム研究と一部重複しているが、吉野は平和主義研究にも関心を示していた。フリーメイソン研究は両者にまたがるもので、それ以外にもズットナーなどに触れている。ただ平和主義研究は、それ程専門的な域には達しなかった。社会主義研究に関しても読書の痕跡はあるが、これも余り進まなかった模様である。(二) 吉野作造はヨーロッパ比較政治研究にも関与はしているが、対象国、分析対象を限定したものではなく、浅く広くの印象が強い。吉野は留学中、各国政治に関する国家学・国法学・歴史学の概説書や辞典類に接して、初歩的知識を集めようとしていた。これは直接には彼が帰国後担当することになっていた「政治史」講義への準備と思われるが、結果的に民本主義鼓吹の恰好の準備になったと思われる。(三) 吉野作造は欧米滞在中も日本の言論界を絶えず点検しており、『國家學會雜誌』、『法學協會雜誌』、『太陽』、『新人』、『新女界』、『東京朝日新聞』は定期講読していた模様である。これに対し現地の雑誌では、吉野は国外ドイツ人向けの雑誌『エヒョー』を好み、加えてイギリスの日刊紙『タイムズ』を購読していた。ドイツ帝国の主要な政治雑誌は、『政治学雑誌』の既刊部分を購入したものの、それ以外は中道・左派系の『プロイセン年報』、『救済』、『新時代』なども含めて読んだ形跡がない。ドイツ以外の国の政治雑誌にも余り取り組んでいない。(四) 吉野作造は文芸や演劇に幅広く興味を示し、観劇に際しては台本を事前に読んで行くほど熱心であった。吉野はまた、「市民層の封建化」の代名詞とされるドイツ学生組合の文化にも興味があり、文献にも当たっていた。(五) 吉野作造は言語に関しては、ドイツ語のみならず英語、フランス語、イタリア語でも読書することが出来た。これは小野塚喜平次の先例に倣ったとも言える。

〈吉野作造留学日記における読書関係記述一覧〉

一九一〇年（明治四三年）

九月一日 ハイデルベルク：「此日ノ新聞ニ日韓合邦条約ノ独訳載セラレアリ別表ノ如シ」（120）<sup>2</sup>

九月九日 ヴュルツブルク：「午前床中ニアリテ Das Beste in der Welt von Henry Drummond ヲ読ミ」（123）<sup>3</sup>

九月十一日 ヴュルツブルク：「午後 London ノ Times 社、小島啓武君、信次へ手紙ヲ出ス Times 社ヨリハ去年三月以来

月賦金二円ニ減額セシヲ知ラズ甚ダ後レタルニ付キ差当リ十磅其後ハ一磅宛ヲ送レト申来レルニ付キ其誤解ナル旨ヲ説明シ毎月5MK宛ヲ送ルベキヲ通告セル也」（124）

九月一七日 ハイデルベルク：「梅博士ハ大学葬ヲ以テ葬走セラル可シトノ新聞ノ報ニ接シ一種ノ感慨ニミツ」（126）<sup>4</sup>

九月二十二日 ハイデルベルク：「此日 London ノ Times 社へ百科全書ノ九月分月賦払込金5s.ヲ送ル」（127）<sup>5</sup>

九月二十三日 ハイデルベルク：「此日 Leipzig ノ Fock ヨリ Klöpfer, Deutsche Einheitsbestrebungen 送リ来ル」（127）<sup>5</sup>

一〇月一日 ハイデルベルク：「此日 Zeitschrift für Politik. 3. Bände 全部三冊ヲ 16.50 ニテ買フ」（130）<sup>6</sup>

一〇月二日 ハイデルベルク：「午後ハ太陽ヲ読ンダリ Henry Drummond ノ Das Beste in der Welt ヲ読ンダリ」（128）<sup>7</sup>

一〇月三日 ハイデルベルク：「昼食ノ帰りニ Das Deutsche Studententum ト云フ本ヲ見ツケ7.50デ買ツタ 午後ハ宅デ本ヲ読ム」（130）<sup>8</sup>

一〇月五日 ハイデルベルク：「午後ハ新聞ヲ読ム Portugal ニ革命起リ国王殺サレ宮殿ニハ共和旗翻レリト伝フ」（131）<sup>9</sup>

一〇月八日 ハイデルベルク：「今日ノ新聞ニテ見ルト Portugal ノ革命ハ愈確実ニテ国王ハ逃遁シ共和国トナレリト云フ最初ノ大統領ナリト肖像ナドガ出テ居ル」（131）<sup>10</sup>

一〇月十一日 ハイデルベルク：「今日カラ Otto ヲヤル傍 La France d'Aujourd'hui ヲ読ムコトニスル」（133）<sup>11</sup>

一〇月十九日 ハイデルベルク：「Sutner 夫人ノ著 Die Waffen nieder! ヲ買フ 2MKナリ」（136）<sup>12</sup>

- 一〇月二十九日 ハイデルベルク：「午前 Pitoni 先生ニ稽古ニ行ク 新着ノ新人新女界ヲ持参シテ海老名先生ノ教壇安井氏ノ社説ナドヲ翻訳シテ聞カス」(139)<sup>13</sup>
- 十一月三日 ヴュルツブルク：「学校制度ニ付テ尋ネタラ Ministerialblatt für Kirchen- und Schul-Angelegenheiten im Königreich Bayern, Nr. 19 (12. Aug. 1898) ヲ買ツテ見ヨト云ハル」(142)<sup>14</sup>
- 十一月九日 ハイデルベルク：「今日カラ Clara Viebig ノ Dilettanten des Lebens ヲ読ミ始ム」<sup>15</sup>「夜ハ Seignobos ノ政治史ヲ読ム」(144)<sup>16</sup>
- 十一月十五日 ハイデルベルク：「天津ヨリ天津評論ト云フ雑誌送リ来ル 青年会ノ連中ノヤツテル雑誌ナリ」(147)<sup>17</sup>
- 十一月二十二日 ハイデルベルク：「Gustav Fock ヘモ万国地図ト独英仏伊ノ字書トラ注文ス 外ニ竹村君ニ写真ヲ若杉君ニ雑誌ヲ Greta ニ太陽ヲ送ルベク包装ス」(148)
- 十一月二十三日 ハイデルベルク：「午後ハ新聞ヲ研究ス 新聞ニハ Russia ノ Tolstoi 翁逝去ニ付キ之ニ関スル記事多シ Petersburg ノ男女大学生追悼会ヲ開カントシテ警官ノ制止ニ遇フナドノ記事モアリ」(148)<sup>18</sup>
- 十一月二十八日 ハイデルベルク：「今夜ハ当地ノ Theater ニ Ibsen ノ John Gabriel Borkmann ガ演ゼラル、ヲ観ニ行ク筈ナルヲ以テ朝来万事ヲ差シ置キテ其 Text ヲ読ム」(150)<sup>19</sup>
- 十一月三十日 ハイデルベルク：「朝昨日ノ続キヲ聴ク可ク Lohengrin ノ Text ヲ持ツテ Engelbert 君ヲ訪ヒ十二時頃マデ説明ヲキ、テ大意ヲ了ス 午後ハ Openführer ト Text トヲ更ニ精読ス 読ンダ斗リデモ艶麗心魂ヲ奪フモノアリ 名優之ヲ演ジナバ定メシ素敵ナモノナラント想フ」(150)<sup>20</sup>
- 十二月五日 ハイデルベルク：「午後ハ現代政治ノ研究ニ耽ル」(152)<sup>21</sup>
- 十二月六日 ハイデルベルク：「午後ハ現代政治ノ研究ヲナシ」(152)<sup>22</sup>
- 十二月七日 ハイデルベルク：「午後現代政治ノ研究ヲナシ」(152)<sup>23</sup>
- 十二月八日 ハイデルベルク：「午後現代政治ノ研究ヲナス Ludwig 君ヨリ借リタ Berlin ノ Führer ニ Dernburg (殖民大

臣タリシ人ノ父）ノ書イタ新聞ノコト Naumann ノ書イタ政党ノコトヤ面白ク読ム 之ヲ別冊ニ書キ抜ク」（152）<sup>24</sup>  
 二月一六日 シュバイエル：「Führer ヲ買ツタ」<sup>25</sup>「茲処デモ歴史上参考ニナル本ヲ二冊買ツタ」（155）  
 二月二五日 シュヴェルム：「予ニ対シテハ Rosegger ノ Ewiges Licht 一冊手袋一本、襟飾一本、リネン前掛二枚、全上  
 留一本菓子箱三ツ等ナリ」（160）<sup>26</sup>  
 二月三一日 リーデンハイム：「日本服ノマ、ノ Sofa 上ニ安臥シテ太陽ヲ読ム 昼食後日君ト郊外ヲ散歩シテ白雪ヲ  
 踏ム 新人新女界亦皆読ミ了ル」（163）<sup>27</sup>

一九一一年（明治四四年）

一月一日 リーデンハイム：「Hahne 君カラ借リタ Die geschichtliche Entwicklung des Parteiwesens in Deutschland ヲ読ム」  
 （166）<sup>28</sup>  
 一月二日 リーデンハイム：「昨日ニ引キ続キ本ヲ読ム ドーモ此本ハ余リ能ク書イテハナイ」（166）<sup>29</sup>  
 一月三日 リーデンハイム：「宿カラ新聞ヲカリテ読ムニ Portugal ニテ再ビ騒擾起レリトノ報アリ」（167）<sup>30</sup>  
 一月四日 リーデンハイム：「此日国家学会雑誌法学協会雑会ノ外手紙沢山来ル」（168）<sup>31</sup>  
 一月五日 リーデンハイム：「新着ノ国家学会雑誌法学協会雑誌ヲ読ム」（168）  
 一月六日 リーデンハイム：「此日ハ終日内ニ在テ読書セルガ Hahne 君カラ借リタ政党史ハ悉皆読ミ了レリ」<sup>32</sup>「此日ヨ  
 リ Grotewohl ノ Die Parteien des deutschen Reichstages ヲ読ミ始ム」<sup>33</sup>「傍ラ Ibsen ノ Nora, Hoffmannu, Groth ノ Deutsche  
 Bürgerkunde ニモ手ヲ付テ見ル」（168）<sup>34</sup>  
 一月七日 リーデンハイム：「午後モ散歩シタガ Echo 等ノ雑誌届ク」（169）<sup>35</sup>  
 一月一〇日 リーデンハイム：「今日ノ新聞二次ノヤウナ面白イコトガ載ツテ居ル Ein amüsantes Anekdoten von  
 Justizrat Staub[...]」（196—170）<sup>36</sup>

- 一月一日 リーデンハイム：「Das Echo 来ルニ付キ終日之ヲ読ム」(170)
- 一月三日 リーデンハイム：「書店ニテ目ニフレテ Katholizismus 研究ノ材料トナルモノ五冊ヲ買ヒタリ」(172)<sup>37</sup>
- 一月四日 リーデンハイム：「午後新聞来ル 一大非報ヲ伝フ Jelinek 先生の死」(173)<sup>38</sup>
- 一月五日 リーデンハイム：「Echo ヲ読ミ午後ハ独乙政党論ヲ読ム」<sup>39</sup>「Echo ニ Modernisteneid ノ原文 (Latin 語) ノ翻訳ガ載リテ在リシ故読ム」(173)<sup>40</sup>
- 一月六日 リーデンハイム：「独乙政党論ト Bürgerkunde トヲ読ム」(173)<sup>41</sup>
- 一月七日 リーデンハイム：「London Times, Weekly 二冊一所ニ来ル」(173)<sup>42</sup>
- 一月二日 ハイデルベルク：「午後ハ新着ノ太陽其他ノ雑誌ヲヨム」(174—175)
- 一月三〇日 ハイデルベルク：「午前中ハ Freimaurei ノ研究ヲナシ」(176)
- 二月八日 リーデンハイム：「此頃ハ Echo ト London Times ノ研究ニ日ヲ費スノミ」
- 二月一〇日 リーデンハイム：「終日 London Times ヲ読ム 流石 Times ハ Echo ヨリモ内容豊富ナリ」
- 二月三日 リーデンハイム：「Säugling- und Jugendfürsorge ト云フ本ヲ一冊買ヒ」(180)<sup>43</sup>「汽車ノ往復デハ Politische Jahresübersicht ヲ読ミ帰リテ後ハ G. Meyer ノ国法学中ノ宗教団体ノ部ヲ読ム」(181)<sup>44</sup>
- 二月一四日 リーデンハイム：「朝来 Meyer ノ字書ニヨリテ Anarchismus, Nihilismus, Sozialismus, Bodenreform, Sozialdemokratie 等ヲ研究ス」(181)<sup>45</sup>
- 二月二〇日 リーデンハイム：「Ireland 問題ヲ研究ス」(182)
- 二月二日 リーデンハイム：「宗教ノ歴史ニツキ研究ス」(182)
- 二月二日 リーデンハイム：「此頃新聞ニテ清露関係切迫セリトテ八釜シ 一八八一年ノ Koldtscha 条約ヲ更新スルヤ否ヤノ争ナリ 多分清国ニ於テ讓歩スルナラン」(182)<sup>46</sup>
- 二月二三日 リーデンハイム：「Echo ヲ読ム」(182)

- 二月二五日 リーデンハイム：「太陽ト Echo ヲ読ム」（183）<sup>47</sup>
- 二月二八日 リーデンハイム：「床中ニテ太陽新人新女界ヲ読ムニ」（183）<sup>48</sup>
- 三月一日 リーデンハイム：「午前中二月ノ雑誌ドモヲ読ミ午後ハ Echo ヤラ Reviews ヤラヲヒモトク」（184）<sup>49</sup>
- 三月三日 リーデンハイム：「Echo ヲ読ム 朝鮮ニテ反日党ノ陰謀発覚セリトノ電報ヲ新聞ニ見ル」（184）<sup>50</sup>
- 三月四日 リーデンハイム：「Wedekind ノ Tod und Teufel ヲ読ンデ見ル」（184）<sup>51</sup>
- 三月六日 リーデンハイム：「若杉君ハ Wedekind ヲ送ル」（185）
- 三月七日 リーデンハイム：「内ヶ崎君ヨリ来翰 Germany of Germans 一冊ヲ贈ラル」<sup>52</sup>「之ニ対シテハ同君ノ希望モアレハ Dr. Karl Sell ノ Katholizismus und Protestantismus ヲ送ラント思フ」（185）<sup>53</sup>
- 三月一四日 リーデンハイム：「Times ヤ Germany of Germans ヤヲ読ミ」（186）
- 三月一五日 リーデンハイム：「午前中新着ノ Echo ヲ読ミ」（186）
- 三月一六日 リーデンハイム：「午前 Echo ヲ読ム」<sup>54</sup>「新聞来リ夜遅クマデ読ム」（187）
- 三月二〇日 リーデンハイム：「午後ハ新着ノ新聞ヤ太陽ヲ見テ連日ノ疲労ヲ休養ス」（188）<sup>54</sup>
- 三月二二日 リーデンハイム：「朝新着ノ Times ヲ読ム」<sup>55</sup>「午後 Echo ヲ読ム Gustav Fock ハ Nelson Encyclopaedia ヲ注文ス 新刊25冊ニシテ一冊ガ1sナリトハ頗ル安シ」（188）<sup>55</sup>
- 三月二三日 リーデンハイム：「Echo ヲ読ミ」<sup>56</sup>「丁ル 本月ノ太陽ニ宮島博士ノ鼠ト人生ト題スル面白キ論文アリ 最モ興味ヲ以テ之ヲ読ム」（188）
- 三月二六日 リーデンハイム：「Frohwein 君例ニヨリ停留所ニ来リ色々下ラナイ宗教ノ雑誌ナド貸シテ呉レル」（189）
- 三月二七日 リーデンハイム：「午前ハ新着ノ朝日新聞ヲ読ミ」（189）
- 三月二九日 リーデンハイム：「Times, Echo 等ヲ読ム」（190）
- 四月三日 リーデンハイム：「Meyer ニヨリテ Bayern ヲ研究ス」<sup>56</sup>（191）

- 四月四日 リーデンハイム：「Bayernノ研究ヲ終リ其他二三ノ雜書ヲ讀ム」(191)
- 四月六日 リーデンハイム：「Echoヤ何カラ讀ム」(192)
- 四月一二日 リーデンハイム：「富永君ヘハGlauben und Wissen一部ヲ送ル」(193)<sup>57</sup>
- 四月一五日 リーデンハイム：「午前在宅シテLehnbuch der katholischen Religionヲ讀ム」(194)<sup>58</sup>
- 四月二八日 ヴェルツブルク：「歸リテ食事シ雜誌太陽ヲ讀ム」(197)<sup>59</sup>(ヴェルツブルク大学図書館での圖書閲覧に關して編集者註)「(閲覧室内用の圖書請求・貸出票)「ゲフテン『国家と宗教』ベルリン 一八七五 政〇七〇三」(独文)と鉛筆で記入)貼付」(198)<sup>60</sup>
- 五月六日 ヴェルツブルク：「午後Kirchengeschichteを讀ム」(200)<sup>61</sup>
- 五月一七日 リーデンハイム：「同時ニ新人新女界モ到着 雜誌ハ床上ニテ讀ミタレドモ起キ返事書クノ勇氣ナク徒ラニ悶々ス ドーモ斯シナ風デハ困ル」<sup>62</sup>
- 五月一九日 リーデンハイム：「Staatsbürger 中ノ政党ニ關スル論文ヲ讀ミ」(202)<sup>63</sup>
- 五月二〇日 リーデンハイム：「朝太陽送り來ル 終日之ヲ讀ム 之ニ依ルニ天主教六万人希臘教三万人 新教ニテハ組合日基美以并ニ聖公会合シテ漸ク六七万位ノ処ナリ 但シ天主教徒中三万余ハ長崎県ニアリト云フ」(202)<sup>64</sup>
- 五月二二日 リーデンハイム：「今日ヨリマタ改メテ久シクタマツタEchoヤTimesノ研究ニ取り掛ル」(203)
- 五月二四日 リーデンハイム：「食後散歩シ午後ハEchoヤラTimesヤラヲ讀ム」(204)
- 六月九日 ヴェルツブルク：「Times, Echo, Review of Reviews 凡テ讀ミ終ル」(209)
- 七月一七日 ヴィーン：「帰途新選挙法ノ勢力地図トUlbrichノ澳國憲法論トヲ求ム」(223)<sup>65</sup>
- 七月一九日 ヴィーン：「東京ヨリ新刊ノ太陽届ク」<sup>66</sup>
- 七月二二日 ヴィーン：「ヨミ滞リノTimesヲ一生懸命ニヨム」
- 八月三日 ヴィーン：「法学協會國家学会ノ七月号届ク」(227)<sup>67</sup>



八月六日 ヴィーン：「暫ク公園ノ Bank ニ腰掛ケテ新着ノ Echo ヲ読ミ」(227)

八月九日 ヴィーン：「兼テ注文セル Helene von Racowitza ノ Meine Beziehungen zu Ferdinand Lassalle 送り来ル」(228)<sup>68</sup>

「Helene Hahne 氏 Fritz Hahne 君ヨリ手紙来リ且拙稿 Entwicklung des Christentums in Japan ノ掲載シアル Das Volk 数葉ヲ送り来ル」(228)<sup>69</sup>

九月一日 ヴィーン：「又新着ノ新聞ニテ歌舞伎座京都ノ松竹会社売収セラレシノ報ヲ読ム」(233)<sup>70</sup>

九月四日 ヴィーン：「宗君ヨリ新聞ヲ借りテ読ムニ歌舞伎座売却談破約トナリ羽左右エ門芝翫等モ出金シテ田村成義ノ手ニ帰セリト云フ 浅間山噴火シ死傷アリトノ報アリ」(236)<sup>71</sup>

九月五日 ヴィーン：「Handwörterbuch der Staatswissenschaften ノ V 及 VII 二冊到着セシ也」(236)<sup>72</sup>

九月一七日 ヴィーン：「朝起キテ新聞ヲ見ルト今日 Lebensmitteleuerung ノ問題ニ関シ市民ノ Demonstration アリ九時半マデニノ庭前ニ集ルトアリ」(239)

九月二八日 ゼクシツシユ・シユヴァイツ：「汽車 Sächsishe Schweiz ニ掛ル頃予ノ窓際ニ立ツテ風景ヲ眺ル間此婦人予ノ Echo ヲ取リテ読ム」(244)

一〇月一九日 ベルリン：「夕方新人来ル」(249)<sup>73</sup>

一〇月二七日 ベルリン：「此日ノ新聞ニ袁世凱愈征討勅使トシテ出陣セリトノ報アリ」(251)<sup>74</sup>

一一月二一日 ベルリン：「雑誌太陽ナドモ送り来ル」(256)<sup>75</sup>

一二月二七日 ベルリン：「支那ノ休戦ハ更ニ二週間延バサレタリトノ報新聞ニ見ユ」(258)<sup>76</sup>

一九二二年（明治四五年・大正元年）

一月一日 ベルリン：「Chaise-Long ニ横リテ太陽ヲ読ム」(264)<sup>77</sup>

一月二九日 ベルリン：「午後ハ疲勞ヲ覚ユ Chaise-Long ノ上ニ横リテ太陽ヲ読ム」(269)<sup>78</sup>

- 三月二日 ベルリン：「本ヲ片付ケ箱ヲ注文ス 独乙語ノ本ハ一切日本ニ送ル考ナリ 仏国ニテハ主トシテ仏語ノ書ヲ読  
ミ英国ニテハ英語ノ本ヲ読ム」(274—275)
- 三月四日 ベルリン：「読書ス 年初読ミ残シノ新聞等漸ク読ミ了ル」(275)
- 三月一日 ベルリン：「午後日本ノ新聞ヲ読ム」(277)
- 三月一日 ベルリン：「午前日本ノ新聞ヲ読ム」(277)
- 三月二〇日 ベルリン：「小野塚先生ヨリ手紙ニテ Wippermann's Gedächtniskalenderノ購入方ヲ依頼シ来ル 但シ法科大  
学用ナリ」(278)<sup>79</sup>
- 三月二九日 ベルリン：「午前二約アリテ Jüdischer Prediger Dr. Levin 氏ヲ訪フ Judentum 質問ノ為ナリ 氏ハ丁寧ニ予ヲ  
引見シテ其著数部ヲ惠贈セラレ且種々ノ質問ニ応ゼラル」(281)
- 四月三〇日 シュトラスブルク：「Würzburg ヨリ此地ニ至ルノ道中汽車ノ中ニテ Dr. Paul Rohrbach ノ新著 *Der deutsche  
Gedanke in der Welt* ト云フノヲ見タガ (無論全部ハ見了ラスガ) 中々面白シ 時弊ニ適中シテ居ルト思フ 日本ノ政治  
家乃至経世家ニ取ツテモ大ニ参考ニナルト思フ 此人ニハ一度 *Weimar* ニテ遇ツタ」(293)<sup>80</sup>
- 五月二二日 シュトラスブルク：「新人新女界送り来リ新聞ハ久シク来ラズ」(299)<sup>81</sup>
- 六月一六日 ナンシー：「注文セシ *La vie politique dans les deux mondes* 来ル 一九二一年度分即第五卷ナリ Alcan ノ発  
行ナリ」(304)<sup>82</sup>
- 六月一九日 ナンシー：「書物屋ニ *La vie politique dans les deux mondes* ノ代金ヲ払ヒ Daudet ノ *Lettres de mon moulin* ヲ買コ」  
(305)<sup>83</sup>
- 六月二五日 ナンシー：「汽車中ニテ Daudet ノ *Lettres de mon moulin* ヲ読ム」(306)
- 六月二七日 ナンシー：「太陽モ着シ居ル」(307)<sup>84</sup>
- 六月二八日 ナンシー：「六月分ノ太陽送り来レルガ中ニ上杉君ノ国体論アリ 僻説ニアラズンバ研究ノ未ダ至ラザルモ

「ノナリ」(307)<sup>85</sup>

六月二九日 ナンシー：「此日太陽ニテ中島半次郎君ノ文ヲ讀ミ同感ニ堪ヘズ端書ヲ出シテ賛成ノ意ヲ表ス」(307)<sup>86</sup>

七月三日 ナンシー：「Petit Larousseト外地図一冊ヲ買フ」(308)<sup>87</sup>

七月七日 ナンシー：「新着ノ朝日新聞ヲ讀ミナドシテ」(310)

七月九日 ナンシー：「朝 Fock m. Egelhaafノ Geschichte der neuesten Zeitヲ送り來ル 之ハ去年ノ今頃注文セシモノナリト記憶ス」(310—311)<sup>88</sup>

七月一日 ナンシー：「此日 Timesヘ百科全書ノ六七月分ト Echoノ後半期分トヲ為替ニテ払フ」(313)

七月一八日 ナンシー：「此日新聞ニテ日露同盟条約成立ノ報アリ」(314)

七月一六日 ナンシー：「La vie politique dans les deux mondesヲ讀ンダガ政治ノコトモ相当ニ知ツテ居ツテ大ニ満足セリ」(314)

七月一九日 ナンシー：「小野塚先生ヨリ七月分ノ法学協會雜誌送り來ル、独乙政況ノ論文ヲ載セアリ」(315)<sup>89</sup>

七月二二日 ナンシー：「新着ノ新人ニ内ヶ崎君第五子ヲ挙グ」(315)<sup>90</sup>

——七月三〇日明治天皇崩御、大正天皇踐祚に伴い「大正」に改元——

八月七日 パリ：「佐々木君ヘ Tageblattノ週刊送ル」(319)

八月二〇日 パリ：「只新聞ニ久シク懸案タリシ西仏交渉 (Marcoニ関スル) 一段落ヲ告ゲ不日調印ヲ見ルベシトノ報ト

澳国外首 Berchold發議シテ土国内政ニ干渉スベキヲ英独仏露ノ諸國ヘ申込メリトノ報アリ 殊ニ此後者ノ問題ニ関シ

テハ各國ノ新聞ニテ盛ニ論議セラレツ、アリ」(323)

八月二三日 パリ：「新聞并ニ新人新女界送り來ル」(324)<sup>91</sup>

九月四日 ジュネーヴ「午後食後散歩ノ次手ニ Pierre Clergetノ La Suisse au XXe Siècleト云フヲ買フ」(328)<sup>92</sup>

九月一二日 ジュネーヴ：「新聞ニ斯ナ記事見ユ 猶太人ノ伝説ニ依レバ天地開闢以來今日マデ僅ニ五六七三年ヲ經タ

ルニ過ギザルモノト見ユ」(330)

九月一五日 ジュネーヴ…「此日新聞ニテ先帝陛下葬送ノ御当日乃木大将夫妻自刃以テ故帝ニ殉ジタリトノ報ニ接ス」  
(331)<sup>93</sup>

九月二二日 ジュネーヴ…「午後八宿ノ老爺ノ紹介ニテ当地新聞 *Journal de Genève* ノ主筆 A. Bonheur 氏ヲ訪フ 田舎新聞ノ記者ナルニ拘ラズ広ク東西ノ事物ニ通ズルニハ感心セリ 乃木大将ノ自殉ニ関スル論評ヲ見テモ相当ニ日本ヲ研究シテ居ル様ナリ」(333)

一〇月三日 パリ…「夕方町ニ散歩シ *Louvre* ニテ帽子一ヶ (15.50) 及不如婦ノ仏訳 *Plutôt la mort* (3) 一冊ヲ買フ」  
(336)<sup>94</sup>

一〇月四日 パリ…「新聞ニテ乃木大将殉死ノ詳報ヲ読ム」(336)

一〇月七日 パリ…「午後モ佐々木君ト一所ニ *Alcan* ニ行キ書籍数部ヲ求ム」(336—337)

一〇月八日 パリ…「午後ハ矢張り一所ニ *Larousse* 其他ノ書店ヲアサル」(337)

一〇月九日 パリ…「途中古本屋ニテ書物数部ヲ購求ス」(337)

一〇月一一日 パリ…「午前ハ仏文翻訳ニ従事シ午後ハ河岸ヲ散歩シ古本ヲアサル *Le Japon contemporain* ト題シ

一八五七年版ノ本ヲ三十文ニテ買ヒシハ掘出シ物ナリ」(337)<sup>95</sup>

一〇月一二日 パリ…「*Les grands traits politiques* ヲ買フ」(337)<sup>96</sup>

一〇月二一日 パリ…「*Sudermann* ノ *Frau Sorge* ヲ読ム」(339)<sup>97</sup>

一〇月二四日 パリ…「午後河岸ヲ散歩シテ古本ヲアサリ二冊ヲ得タリ」(340)

一〇月二五日 パリ…「午後河岸ヲアサリテ *L'Autriche sans Marie Thérèse* ト云フ美本ヲ三十二テ求ム」(340)<sup>98</sup>

一〇月二七日 パリ…「午後例ニヨリテ河岸ヲ散歩シテ古本三冊ヲ掘出ス」(341)

一〇月三〇日 パリ…「此日ヨリ *Klotz* ノ第三巻目ノ翻訳ニ進ム *Strasbourg* 以来漸ク三冊ヲ了シ今四冊目ニ入ル予定ニ

テ九月中旬ニ全部了ル積リナリシガ随分後レタモノナリ」（341）

一〇月三十一日 パリ：「午後古本屋ヲ探シテ *Papaüt* ト *Auriche* ノ歴史トヲ求ム」（341）<sup>99</sup>

十一月三日 パリ：「新人着ク 海老名先生ノ乃木大将殉死論頗ル我意ヲ得タリ」（342）<sup>100</sup>

十一月四日 パリ：「正則ノ勉強ハ明日ヨリトシテ新着ノ太陽ヲ読ミナドシテ日ヲ暮ス」（342）<sup>101</sup>

十一月五日 パリ：「太陽ヲ読ミ了ル」（342）

十一月八日 パリ：「午後散歩ノ次手古本屋ニテ北米并ニ亞洲ノ政治問題ニ関スル書二冊及西班牙ノ社会問題ト *Russia*

ノ革命ニ関スル書二冊トヲ求ム」（343）

十一月十二日 パリ：「午後ハ一寸河岸ヲ散歩シテ *La Question de l'Extrême-Orient* 一冊ヲ求ム」（343）<sup>102</sup>

十一月二十一日 パリ：「午後散歩シ *Macedoine et le chemin de fer de Bagdad* ト *l'Angleterre moderne* トヲ求ム」（345）<sup>103</sup>

十一月二十二日 パリ：「新聞ノ所報ニ依レバ *Turquie* ハ休戦ノ提議ニ関スル *Bulgarie* ノ条件ヲ拒斥シタリトナリ」（346）

十一月二十五日 パリ：「此日英人 *Barnes* ノ著 *The Man of the Mask* 一冊ヲ求ム」（346）<sup>104</sup>

十二月二日 パリ：「*Théâtre Sarah-Bernard* ニテ *La Dame aux Camélias* ヲヤルト云フニヨリ *Text* ヲ読ミ始ム」（347—348）<sup>105</sup>

十二月四日 パリ：「夜ハ一寸狩野先生ヲ訪ヒ夫レヨリ *Tranon Lyrique* ニ *Paul et Virginie* ヲ見ニ行ク *texte* ヲ求メテ読ン  
デ見タシト思フ」（348）<sup>106</sup>

十二月十六日 パリ：「*Opéra* ニ行ク 題ハ *Tamhäuser* ナリ *Text* ヲ読ンデ行キシ故能分リ」（350）<sup>107</sup>

十二月二十二日 パリ：「此間 *La Dame aux Camélias* ノ脚本ヲ読ミツ、アリシガ昨夜床ノ中デ読ミ了リ今日ヨリハ *Faust* ヲ

読ミ始ム」（351）<sup>108</sup>

十二月二十四日 パリ：「*textes* ヲ買ツテ読ンデ見ル *Tosca* ト *Cavalleria Rusticana* トナリ」（352）<sup>109</sup>

十二月二十六日 パリ：「*Tosca* ヲ大略読ミ了ル」（352）

二月二八日 パリ：「Rigoletto ヲ読ミ始ム」(353)<sup>110</sup>

一九一三年(大正二年)

一月一日 パリ：「Zola ノ L'Affaire Clémenceau ヲ買フ」(356)<sup>111</sup>

一月六日 パリ：「Daudet ノ 著二冊其他 Goncourt 及 Hervieu ノ 著二冊ヲ古本屋ニテ求ム」(357)<sup>112</sup>

一月一日 パリ：「La Dame aux Camélias ノ 脚本ノ方ヲ読ミ了ル」(359)

一月二日 パリ：「朝到着ノ新聞ニツキ内閣更迭ノ顛末ヲ読ム」(359)

一月三日 パリ：「今夜 Odéon ニテ觀ルベキ Tolstoi 著 La Puissance des Ténébres ヲ読ム 新着ノ新聞ニヨルニ之ハ日本

ニテ近頃演ツテルサウナリ」(360)<sup>113</sup>

一月四日 パリ：「Aida ヲ精読シ了ル」(360)<sup>114</sup>

一月五日 パリ：「明後日ノタメニ La Flûte enchantée ヲ読ム」(360)<sup>115</sup>

一月六日 パリ：「早ク帰ツテ La Flûte enchantée ヲ読ミ続ク」(360)

一月七日 パリ：「午前中 La Flûte enchantée ヲ読ミ了ル」「明日ノ Opéra ノタメ Faust ヲ読ム」(361)

一月八日 パリ：「午後ハ今夜ノ準備トシテ Faust ヲ読ム」(361)

一月九日 パリ：「Salomé ヲ精読シ了ル」(361)<sup>116</sup>

一月一〇日 パリ：「大統領ニ Poincaré ガ選レシニテ新聞ガ大騒ギナリ」(362)

一月二日 パリ：「今日ノ新聞ニ依ルニ Poincaré ノ後ヲウケテ内閣組織ノ大命ヲ受ケタル Briand ハ其功ヲ了リ明日頃  
其顔触ハ発表セラルベシト伝フ」(362)

一月二七日 パリ：「午後新聞ノ広告ニテ見タル Les Partis politiques sous la troisième République ヲ買ニ行ク」(363)<sup>117</sup>

一月三〇日 ルクセンプルク：「Luxemburg ノ官版年鑑ヲ求メ」(364)<sup>118</sup>

- 二月一三日 ベルリン：「午後ハ今夜王室 Opernhaus ニテ観ルベキ Tristan und Isolde ノ準備ヲスル」(370)<sup>119</sup>
- 二月二日 シュヴェルム：「日曜ニ芝居ニ招待サレ居ルニツキ Mignon ノ Text ヲ買ツテ読ム」(372—373)<sup>120</sup>
- 二月二日 シュヴェルム：「新聞ニハ議會ノ停会ノコトヤ桂公新政党组织ノコトナド詳ニ分ル」(373)
- 二月二日 シュヴェルム：「朝起キテ見ルト寛君ニ依頼セル本 (Herker's Arbeitertage) 届キ居ル」「Oper ノ脚本 Evangelium ヲ買ツテ読ム」(374)<sup>121</sup>
- 二月二五日 シュヴェルム：「Evangelium ヲヨミ了ル」(374)
- 二月二六日 シュヴェルム：「Times ニヨリテ山本内閣ノ顔触ヲ知ル」(374)<sup>122</sup>
- 三月五日 ブリュッセル：「四時帰宿シテ新聞ヲ読ム 先頃東京神田大火ノ報見ヘシガ今日ハ沼津大火ノ電報アリ」(377)
- 三月九日 ブリュッセル：「夜讀書ス 讀書トハ Belgium ニ入りテ後買ヒタル選挙法改正問題、兩人種反目問題二千スル二三小冊子ヲ読ミシナリ 大ニ益スル所アリ」(380)
- 三月一〇日 ブリュッセル：「午前中ハ領事館ニ赴キ新聞ヲ見シテ貰フ 日本最近ノ政変ニ関シ稍明了ナル知識ヲ得タリ」(380)
- 四月八日 ロンドン：「途中安イ古本ヲ買フ 一ハ Finland ニ干スルモノ」s. 一ハ米国建国史二千スルモノヲ讀ミナリ」(386)
- 四月九日 ロンドン：「Paul Hebeck ノ著 「Wie das Englische Volk sich selbst regiert」ヲ読ミ終ル 得ル所頗ル多シ 殊ニ各政党ノ首領ノ伝記尤モ感興ヲ催サシム Lloyd George ノ叙述尤モ面白シ」(387)<sup>123</sup>
- 四月一〇日 ロンドン：「Ilbert ノ Parliament ヲ讀ミ始メシナリ」(387)<sup>124</sup>
- 四月一三日 ロンドン：「箕作君ノ所デ中央公論二月号ニ松崎天民ト云フ人ノ大鳥六三君ト関係アリシト云フ芸者何某ノコトヲ書テアルヲ見ル」(388)

- 四月二二日 ロンドン：「途中ノ鼻端ノ本屋ニヨリ Pamphlets 数冊ヲ求メ歸リ」(391)
- 四月二三日 ロンドン：「市中ニテ Sentai 陥落ノ報ヲ伝フルモノアルモ Times ニハ未ダ其事見ヘズ」(391)
- 五月二三日 ロンドン：「終日 Italy 語ノ本ライヂクリ大部分ヲ了ル」(399)
- 六月三日 ロンドン：「仏人牧師 Les Jeunes Gens d'Aujourd'hui ト云フヲ貸シテ呉レル 之ヲ讀ムニ近時仏国有為ノ青年  
大ニ Nationalistic ニナリシトナリ 動機ハ Agadir 事件ニ在リトハ著者ノ論斷ナルガ如シ」(399)<sup>125</sup>「伊太利語ノ本ヲ  
讀ミナドシテ日ヲ暮ス」(400)
- 六月六日 ニューヨーク：「本屋ニテハ Italia 語ノ字引ト L'Italia moderna トヲ求ム」(402)<sup>126</sup>
- 六月七日 バッファロー：「American Review of Reviews ヲ買ツテ讀ンデル中ニ時間ニナル」(402)<sup>127</sup>
- 六月九日 シカゴ：「American Review of Reviews ノ巻頭ノ日米問題ニ関スル論文頗ル我意ヲ得タリ」(403)
- 六月一四日 ポートランド：「朝井田君ト一所ニ領事館ニ赴キ日本ノ新聞ヲ讀ム」(405)
- 六月一九日 太平洋上：「例ノ Italia ヲ頻リニ讀ム」(406)
- 六月二一日 太平洋上：「Italia ヲ讀ミ太陽ヲ拾ヒ讀ミシテ日ヲ暮ス」(407)
- 六月二四日 太平洋上：「例ノ Italia ヲ頻リト讀ム」(406)<sup>128</sup>
- 六月二五日 太平洋上：「船長ヨリ Gefährlicher Alter ノ訳ヲ借りテ讀ミ始ム」(407)
- 六月二六日 太平洋上：「夜ニ至リテ始メテ千葉君寄贈ノ排日問題梗概数葉ヲ讀ム」(408)<sup>129</sup>
- 六月三〇日 「引続キ『L'Itali amoderna』ヲ讀ム」「千葉君寄贈ノ排日問題梗概モ大半讀ミ了ル」(409)

## 注

<sup>1</sup> 吉野作造は論文「羅馬教皇」で、アドルフ・フォン・ハルナツクの名著「基督教眞髓」(Das Wesen des Christentums)がカトリック教会の禁書目録に登録されたという事実を紹介しているが、『法學協會雜誌』第三二卷第一号、九〇頁。『留学日記』にはこの



書名が出ていない。

『フランクフルト新聞』には該当箇所なし。

Henry Drummond, *Das Beste in der Welt*. Deutsche autorisierte Ausgabe, übersetzt v. Julie Suttner, 30. Aufl., Bielefeld/Leipzig: Verl. v. Velhagen & Klasing, 1895, 71 S. 原版は Henry Drummond, *The greatest thing in the world*, New York: James Pot, 1890.

以下の記事を見たものと推測される。「梅博士は校葬」、『東京朝日新聞』明治四三年八月二九日朝刊、五頁。なお「校葬」とは梅が総理を務めた法政大学によるもので、葬儀委員長は富井政章であった。

Karl August Klüpfel, *Geschichte der deutschen Einheitsbestrebungen bis zu ihrer Erfüllung 1848-1871*, 2 Bde., Berlin: Verl. v. Julius Springer, 1872/73, 389 S. (Bd. 1) und 434 S. (Bd. 2). 日記原本でも確認したが、吉野作造の転記ミスと思われる。これは解放戦争から、とりわけ三月革命から独仏戦争に到るドイツ統一の過程を分析した大部の政治史である。著者は当初一八五三年にドイツ統一運動を概観する著作を刊行していたが、のちにドイツ統一が実現したので、一八七二年にこの改定版を刊行した。プロイセン主導でのドイツ帝国建設を情熱的に肯定する自由主義系の著作である。なお「Fock」とは「Gustav Fock」書店を指す（148）。  
Zeitschrift für Politik は「ユンヘン政治大学」が一九〇七年に刊行を開始した政治学雑誌であるから、吉野作造は既刊の一九〇七年、一九〇八年、一九〇九年分を購入したのではないかと推測される。この三巻には、オットー・ヒンツェ、フーゴー・プロイス、ゲルトルート・ボイマー、マルティン・シュパーン、カール・フォン・シュテンゲル男爵、フェルデナント・テンニース、マティアス・エルツベルガー、エドゥアルト・ベルンシュタインらが寄稿している。

『太陽』第二〇巻第二二号（明治四三年八月二八日発行）か。

Friedrich Schulze/Paul Ssymak, *Das deutsche Studententum von den ältesten Zeiten bis zur Gegenwart*, Leipzig: Voigtländer, 1910, 487 S. これはベルリン大学百周年を記念した浩瀚なドイツ学生史で、一三五〇年から一七五〇年までをシュルツェが、一七五〇年から一九一〇年までをシマンクが執筆している。シマンク担当部分の主要な内容は、いうまでもなく各種学生組合の形成・発展である。吉野はドイツ学生の剣術や学生歌に関心を懐いていたので、政治史との関連から学生の風俗まで包括的に扱った同書を購入したものと思われる。なお「午後」の「本」は探索不能。

左派自由主義系の日刊紙『フランクフルト新聞』か。以下の箇所に共和国旗掲揚の記述があるが、国王殺害の記述はない。  
Frankfurter Zeitung und Handelsblatt, Nr. 275, 5. November 1910, Abendblatt, S. 1.

『フランクフルト新聞』か。以下の箇所にポルトガル王逃亡の記述がある。しかし大統領の肖像はない。Frankfurter Zeitung und Handelsblatt, Nr. 276, 6. November 1910, Erstes Morgenblatt, S. 3.

「Orto」とはドイツ語作文教材の著者名か。「La France d'Aujourd'hui」は以下の文献と推測される。Barrett Wendell (Traduction de Georges Grappe), La France d'Aujourd'hui, Paris: Nelson, 1909. 382 pages. ポケットサイズの小冊子で、大学、社会構造、家族、国民性、文学、宗教、革命、共和制など当時のフランスが手軽に分かる構成となっている。

Bertha v. Suttner, Die Waffen nieder! Drama in 3 Akten, Halle 1893. 120 S. これは平和主義者ズットナーの代表的戯曲である。

『新人』第一一巻第一〇号(明治四三年一〇月一日発行)、『新女界』(明治四三年第二巻第一〇号(明治四三年一〇月一日発行))か。Ministerialblatt für Kirchen- und Schul-Angelegenheiten im Königreich Bayern, München: Kgl. Hofbuchdruckerei Kasner & Callwey は、バイエルン王国内務省の教会・学校政策に関する不定期刊行物で、教会・学校制度についての王国各官庁の決定事項を伝達する官報の一種であり、一九一〇年当時も刊行されていた。

Clara Viebig, Dilettanten des Lebens, Berlin: Verl. Ullstein & Co, 1910. 312 S. これは自然主義の人気作家の小説である。

Charles Seignobos, Politische Geschichte des modernen Europa. Entwicklung der Parteien und Staatsformen 1814-1896, Leipzig: Verl. v. Dr. Werner Klinkhardt, 1910. 800 S. これは比較欧州政治論の名著である。著者セニョボスはパリ大学文学部教授で、この作品でアカデミー・フランセーズから賞を授与された。ドイツ語訳はフランス語版第五版を翻訳したものである。この書籍ではまずイギリス、フランスが詳細に叙述されたあと、オランダ、スイス、スペイン、ポルトガル、イタリアと概説され、その後ドイツ、エステルライヒが詳細に検討されている。そのうちスカンディナヴィア諸国、ロシアとポーランド、オスマン帝国、バルカンのキリスト教諸国が扱われ、幾つかの一般的考察のあと、ヴィーン体制からドイツが支配的となった当時の欧州政治まで、国際政治が扱われている。

目下のところ不明。

『フランクフルト新聞』か。以下の箇所にトルストイ追悼の学生と警官との衝突の記述がある。Frankfurter Zeitung und Handelsblatt, Nr. 323, 23. November 1910, Drittes Morgenblatt, S. 1.

読んだのは Henrik Ibsen, John Gabriel Borkman. Schauspiel in vier Aufzügen, Berlin: S. Fischer 1898. 175 S. か。

読んだのは Lohengrin von Richard Wagner. Neue durchges. Bühnenausg., Leipzig: Breitkopf & Härtel 1904. 64 S. か。

- 21 読んだのは前述の Seignobos, Politische Geschichte か。
- 22 読んだのは前述の Seignobos, Politische Geschichte か。
- 23 読んだのは前述の Seignobos, Politische Geschichte か。
- 24 読んだのは前述の Seignobos, Politische Geschichte か。「BerlinノFührer」つまりベルリンの旅行ガイドブックは数多く存在するが、日記にデルンブルクやナウマンの記述があることから、概ね以下のものと特定できる。Ich weiß Bescheid in Berlin. Vollständiger systematischer Führer durch Groß-Berlin für Fremde und Einheimische, für Vergnügungs- und Studienreisende, Ausgabe 1908/1909, Berlin: B. Behr's Verl., 1908. 375 S. フリードリヒ・デルンブルクがベルリンの報道機関や文芸について、フリードリヒ・ナウマンがベルリンの政治について執筆しており、他にもホテル、レストラン、観光施設などの紹介がある。なお吉野家によれば、書き抜いた「別冊」は現在行方不明という。
- 25 Verein zur Förderung des Fremdenverkehrs in Speier (Hrsg.), Kleiner Führer durch Speier am Rhein, Speier: Kranzbühler [nach 1900]. 15 S. か。
- 26 Peter Rosegger, Das ewige Licht. Erzählung aus den Schriften eines Waldpfarrers, Leipzig: Staackmann, 1903. 427 S. 著者ペーター・ロゼガーはカトリック教徒だが、プロテスタントとの関係が深かった。
- 27 『太陽』第一六巻第一六号（明治四三年二月一日発行）、『新人』第一一巻第一一号（明治四三年二月一日発行）、『新女界』第二巻第二二号（明治四三年二月一日発行）か。
- 28 Adolf Stein, Die geschichtliche Entwicklung des Parteiwesens in Deutschland 1847-1897, Berlin: Vaterländische Verlags-Anstalt, 1897. 31 S. これはフランス革命以降（特に三月革命以降）のドイツ政治党派の歴史を概説した小冊子である。主要政党、とりわけ自由主義、社会主義の左派政党が紹介されたあと、アドルフ・シュテツカーやフリードリヒ・ナウマンらキリスト教社会派にも言及が為されている。
- 29 前述の Stein, Die geschichtliche Entwicklung のことか。
- 30 「読書」は前述の Stein, Die geschichtliche Entwicklung のことか。『フランクフルト新聞』には該当箇所なし。
- 31 『國家學會雜誌』第二四巻第二二号（明治四三年二月一日発行）、『法學協會雜誌』第二八巻第二二号（明治四三年二月発行？）か。

「政党史」は前述の Stein, Die geschichtliche Entwicklung のことか。

著者名が異なるが、表題から以下の文献ではないかと判断される。Alexander Burger, Die Parteien des deutschen Reichstages. Nach ihren Programmen geschildert, Gutzsch bei Leipzig: Felix Dietrich 1908, 28 S. これは「文化と進歩」叢書の一冊で、民衆啓蒙を目的とした左派自由主義系の小資料集である。なかでは「右派政党」(ドイツ保守党、自由保守党(帝国党)、反ユダヤ主義諸党、農業家同盟、キリスト教社会党)、「中央党」(左派政党)(国民自由党、自由思想諸党、国民社会協会、社会民主党)が扱われ、とりわけ綱領が引用されている。

Georg Hoffmann/Ernst Groh, Deutsche Bürgerkunde, Kleines Handbuch des politisch Wissenschaftlichen für Jedermann, sechste, vermehrte Aufl., Leipzig: Fr. Wihl. Grunow, 1910, 386 S. 初版は一八九四年で、ホフマンの肩書は Reichsgerichtsrat、グロートの肩書は Professor Dr. とある。他の国民と比較して国家意識の低いドイツの一般民衆に国制の基本的知識を普及させるといいう目的で、非党派的に書かれたとされる小ハンドブックである。ゲームインデ、連邦諸国、帝国から始まって、皇帝、連邦評議会、帝国議会、帝国宰相、裁判所、陸海軍、産業、植民地、財政、教会、教育機関、社会立法と政治一般を網羅している。

『エヒョー』は一冊百頁ほどの総合雑誌で、読み手として特にドイツ帝国外のドイツ系住民を念頭に置いており、彼らの生活の紹介も多い。

『フランクフルト新聞』には該当箇所なし。

以下で言及のある「Katholizismus und Protestantismus」「Lehrbuch der katholischen Religion」「Kirchengeschichte」など。

『フランクフルト新聞』には該当箇所なし。

「ドイツ政党史」は Burger, Die Parteien か。

Das Echo. Organ der Deutschen im Auslande. Wochenzeitung für Politik, Literatur und deutsche Export-Interessen. Stimmen aus allen Parteien, XXX. Jg., Nr. 1479, Berlin: 5. Januar 1911, Anti-Modernisten-Eid, S. 51 f.

Weekly は現在のところ未特定。

『太陽』第一七巻第一号(明治四四年一月一日発行)、『新人』第一二巻第一号(明治四四年一月一日発行)、『新女界』第三巻第一号(明治四四年一月一日発行)か。

表題が若干異なるが、以下の文献ではないかと推測される。Albert Uffenheimer, Soziale Säuglings- und Jugendfürsorge, Leipzig: Verl. v.

Quelle & Meyer, 1910. 172 S. 著者は医学博士で、ミュンヘン大学私講師である。最初の六章で乳幼児の問題が扱われ、第七章でそれ以上の年齢の青少年、第八章で身体・精神障礙児、第九章で非行少年などが扱われている。ドイツの乳幼児・青少年対策が主題だが、イギリスやエステルライヒなど他国の事例にも言及が為されている。

Politische Jahresbericht は現在のところ未特定。[G. Meyer ノ国法学] とは以下の文献ではないかと推測される。Georg Meyer, Lehbuch des deutschen Staatsrechts, 6. Aufl., Leipzig: Duncker & Humlot, 1905. 893 S. (宗教団体の記述は S. 844-870) 上杉愼吉はこの著作を、「吾々が獨逸國法の教科書として普通に使用するマイエルの獨逸國法論」と記している（『國家學史上に於けるヘーゲルの地位』、『法學協會雜誌』第二卷第七号、一〇〇七頁）。

これは前述のゲオルク・マイヤー国法学ではなく、マイヤー百科事典のことではないかと思われる。Meyers Konversations-Lexikon. Ein Nachschlagewerk des allgemeinen Wissens, 5., gänzlichneubearbeitete Aufl., Leipzig/Wien: Bibliographisches Institut, 1894-1901.

Rußland und China, in: Frankfurter Zeitung und Handelsblatt, Nr. 53, 22. Februar 1911, Drittes Morgenblatt, S. 1 usw.

『太陽』は第一七卷第二号（明治四四年二月一日発行）か。

『新人』第二二卷第二号（明治四四年二月一日発行）、『新女界』第三卷第二号（明治四四年二月一日発行）か。

Reviews は後述の American Review of Reviews か。

『フランクフルト新聞』には該当箇所なし。

Franz Wedekind, Tod und Teufel (Totentanz), Drei Szenen (1905), München: Georg Müller Verl., 1919. 37 S. これは人道主義団体「国際女児売買打倒協会」を扱った戯曲で、婦人運動への興味から接近したものだと推測される。今回の調査では一九一九年版しか閲覧できなかった。

Robert M. Berry, Germany of the Germans, London: Sir Isaac Pitman & Sons, Ltd., 1910. 278 pages. これはアングロ＝サクソン系外国人による英語のドイツ紹介で、ドイツの軍国主義、愛国主義、ヴィルヘルム二世など政治的事項から貧者、失業者、婦人、文芸、芸術、建築など、ドイツ社会のあらゆる側面が驚嘆と好奇の眼差しで紹介されている。写真が多く親しみやすい著作である。

Karl Sell, Katholizismus und Protestantismus in Geschichte, Religion, Politik, Kultur, Leipzig: Quelle & Meyer, 1908. 327 S.

『太陽』は三日の「宮島博士」という記述より、第一七卷第四号（明治四四年三月一日発行）と特定される。

Nelson's encyclopaedia, 25 volumes, London: T. Nelson 1911-1913. か。

これもマイヤー百科事典のことではないかと思われる。

これは以下の叢書の一冊分の意味か。Glauben und Wissen. Blätter zur Verteidigung und Vertiefung der christlichen Weltanschauung, Gütersloh: Bertelsmann (anfangs Stuttgart: Kiehlmann), 1903-1910.

同名の書籍は多数存在するので特定が難しいが、そのなかに以下のものがある。Gerhard Rauschen, Lehrbuch der katholischen Theologie für die oberen Klassen höherer Lehranstalten. Erster Teil: Kirchengeschichte, 7. u. 8. Aufl., Bonn: Verl. v. Peter Hanstein, 1913. 152 S. 吉野が手にしたとすれば第四版(一九〇九年)の可能性が高いが、今回の調査では第七・八版しか入手できなかった。この書籍は中等教育向けの教科書で、著者はボン大学員外教授、神学・哲学博士、王立ギムナジウム上級教員である。副題からして、一九一一年五月六日の「Kirchengeschichte」と同一書籍ではないだろうか。内容は、原始キリスト教会の設立から(第二)ヴァティカン公会議や仏反教権主義など近代までの史的概観であり、宗教改革やフランス革命の記述もある。

『太陽』第一七巻第五号(明治四四年四月一日発行)か。

これは編者の転記ミスである。日記原本には、「Geffcken - Staat u. Kirche Berl. 1875. Pol. v 703」とある。これは以下の文献を指すものと思われる。Friedrich Heinrich Geffcken, Staat und Kirche in ihrem Verhältnis geschichtlich entwickelt, Berlin: Hertz/Weimar: Hof-Buchdruckerei 1875.

前述の Lehbuch der katholischen Religion のことか。

『新人』第二二巻第五号(明治四四年五月一日発行)、『新女界』第三巻第五号(明治四四年五月一日発行)か。

Arthur Schröder, Der Deutsche Staatsbürger, Leipzig: Carl Ernst Poeschel 1911. 385 S. か。

『太陽』第一七巻第六号(明治四四年五月一日発行)か。内容確認できず。

Josef Ulbrich, Österreichisches Staatsrecht, Neubearbeitung auf der Grundlage der 3. Auflage (1904) im „Handbuch des öffentlichen Rechts“, Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1909. 378 S. これは、ハプスブルク帝国、特に「帝国議会に代表された諸王国と諸領邦」に関する国制概説で、歴史から現状まで一冊でまとめられている。著者ウルブリヒはドイツ系ブラハ大学教授である。ちなみにこの書籍は「Das öffentliche Recht der Gegenwart. Im Verbindung mit einer grossen Anzahl hervorragender Schriftsteller des In- und Auslandes」という叢書の一冊で、イエリネック、ラーバント、ピロティの編集である。上杉慎吉が日本公法についてドイツ語で

紹介したのも、まさにこの系列の雑誌であった。

66 『太陽』第一七卷第一〇号（明治四四年七月一日発行）か。

67 『法學協會雜誌』第二九卷第七号（明治四四年七月発行？）、『國家學會雜誌』第二五卷第七号（明治四四年七月一日発行）か。

68 Helene von Racowitza, *Meine Beziehungen zu Ferdinand Lassalle*, 5. Aufl., Breslau: S. Schottländer, 1879.

69 Das Volk とは Das Volk. Wochenzeitung für Politik, Christentum, Volkstum のことと思われるが、吉野が論文を掲載した年代のものは現在ドイツで保存されていない模様で、目下のところ発見できていない。

70 以下の記事などを見たものと推測される。「歌舞伎座買収さる」、「東京朝日新聞」明治四四年八月一三日朝刊、五頁。

71 以下の記事などを見たものと推測される。「歌舞伎座買収問題破談」、「浅間山の噴火」、「東京朝日新聞」明治四四年八月一六日朝刊、五頁。

72 到着したのは *Handwörterbuch der Staatswissenschaften*, 3., gänzlich umgearbeitete Aufl., hrsg. v. Johannes Conrad, Jena: Gustav Fischer 1909-1911. か。

73 『新人』第二二卷第一〇号（明治四四年一〇月一日発行）か。

74 『フランクフルト新聞』には該当箇所なし。

75 『太陽』第二七卷第一四号（明治四四年一〇月一日発行）か。

76 『フランクフルト新聞』には該当箇所なし。

77 『太陽』第二七卷第一六号（明治四四年一二月一日発行）か。

78 『太陽』第一八卷第一号（明治四五年一月一日発行）か。

79 Karl Wippermann (Hrsg.), *Deutscher Geschichtskalender*, Leipzig: Friedrich Wilhelm Grunow 1885-1919. これは編者の転記ミスで、日記原本にも「Geschichtskalender」ではなく「Geschichtskalender」とある。東京大学法学部には現在でもこの年鑑が所蔵されている。

80 Paul Rohrbach, *Der deutsche Gedanke in der Welt*, Königstein im Taunus: K. R. Langewiesche, 1912.

81 『新人』第二三卷第五号（明治四五年五月一日発行）、『新女界』第四卷第五号（明治四五年五月一日発行）か。

82 La vie politique dans les deux mondes, publiée sous la direction de Achille Vaillat, avec une préface de Anatole Leroy-Beaulieu, Paris: Félix Alcan, 1908.



- 83 Alphonse Daudet, *Lettres de mon moulin*, Ed. définitive, Paris: Bibliothèque Charpentier, 1906, 332 pages. か。
- 84 『太陽』第一八巻第八号(明治四五年六月一日発行)。
- 85 上杉慎吉「國體に關する異説」、『太陽』第一八巻第八号(明治四五年六月一日発行)、六九—八〇頁。
- 86 中島半次郎「日獨教育制度の比較」、『太陽』第一八巻第八号(明治四五年六月一日発行)、一三四—一四〇頁。
- 87 Petit Larousse illustré, *Nouveau dictionnaire encyclopédique*, publié sous la direction de Claude Augé, Paris: Larousse 1911, 1664 pages. か。
- 88 日記原本でも確認したが、吉野作造の転記ミスと思われる。
- 89 Gottlob Egelhaaf, *Geschichte der neuesten Zeit. Vom Frankfurter Frieden bis zur Gegenwart*, 5. Aufl., Stuttgart: C. Krabbe, 1915. 今回は第五版しか閲覧できなかったが、一九〇九年に第二版が出ている。ビスマルク期とビスマルク後に分けて叙述されたドイツ帝国史概説で、ドイツ・ナショナリズムの立場から描かれた国史である。
- 90 小野塚喜平次「獨逸ニ於ケル最近ノ立憲政況」、『法學協會雜誌』第三〇巻第七号(明治四五年七月発行?)、一〇五七—一〇九七頁。
- 91 『新人』第二三巻第七号(明治四五年七月一日発行)。一〇四頁に内ヶ崎家の第五子(長女)誕生への言及がある。
- 92 『新人』第一三巻第八号(大正元年八月一日発行)、『新女界』第四巻第八号(大正元年八月一日発行)か。『新人』第一三巻第八号には吉野作造の旅行記「伯林より巴里へ」が掲載されていた(八三—八七頁)。
- 93 Pierre Clerget, *La Suisse au XXe siècle. Étude économique et sociale*, Paris: Armand Colin, 1908, 268 pages. あるのは同書 1912, 310 pages. 国民性、人口、政治組織、金融、農工業、労働、通信、商業、国際関係(中立政策)など、スイスを様々な観点から概観している。
- 94 「新聞」は後述の *Journal de Genève* か。
- 95 Tokutomi Kenjiro, *Plutôt la mort. Roman japonais*, tr. par Olivier le Paladin, 4e éd., Paris: Plon-Nourrit et Cie., [n.d.], 302 pages.
- 96 目下のまじふ不明。
- 97 Pierre Albin, *Les grands traités politiques. Recueil des principaux Textes diplomatiques depuis 1815 jusqu'à nos jours. Avec des Commentaires et des Notes*, Paris: Félix Alcan, 1910, 570 S. これは近代の主要な条約を集成したもので、文面はドイツ関係のものも全てフランス語に翻訳されている。
- Hermann Sudermann, *Frau Sorge. Roman*, Stuttgart/Berlin: J. G. Cotta 1911, 292 S.



- 98 Louis Asseline, *Histoire de l'Auriche depuis la mort de Marie-Thérèse jusqu'à nos jours*, 2e éd., Paris: F. Alcan, 1884, 360 pages. か。日記原本には「sans」ではなく「sons」である。
- 99 目下のところ不明。
- 100 海老名彈正「社説…乃木大將の死を論ず」、『新人』第三卷第一〇号（大正元年一〇月一日発行）、一一六頁。
- 101 『太陽』第一八卷第一四号（大正元年一〇月一日発行）か。この号は「御大葬記念」号である。
- 102 M. Gabriel Hanotaux, *La Question d'Extrême-Orient*, Paris 1900, 274 pages. 東南アジアのフランス領を概観した文献である。著者ア
- 103 ノト（一八五三年—一九四四年）はフランス元外務大臣、元植民大臣であった。
- 104 André Chéradame, *La question d'Orient : la Macédoine : le chemin de fer de Bagdad*, Paris : Plon-Nourrit, 1903, 397 pages. Louis Cazamian, *l'Angleterre moderne. Son Évolution*, Paris 1911, 329 pages. 一九世紀イギリスの政治発展を思想と法制度から見た文献である。
- 105 目下のところ不明。
- 106 Alexandre Dumas fils, *La dame aux camelias* ; Diane de Lys ; Le bijou de la reine, Paris : Calmann Lévy, [1890], 429 pages. か。
- 107 Bernardin de Saint-Pierre, Paul et Virginie, Paris: Librairie Hachette 1900, 171 pages. か。
- 108 「タンホイザー」のフランス語台本に関しては目下特定できず。あるいはドイツ語か。
- 109 「ファウスト」のフランス語台本に関しては目下特定できず。あるいはドイツ語か。
- 110 「トスカ」と「カヴァレリア・ルステイカーナ」のフランス語台本に関しては目下特定できず。あるいはイタリア語か。
- 111 「リゴレット」のフランス語台本に関しては目下特定できず。あるいはイタリア語か。
- 112 目下特定できず。誤記か。
- 113 目下特定できず。
- 114 Léon Tolstoï, *La puissance des ténèbres* (1886); *Le premier bouilleur* (1886); *Les fruits de l'instruction* (1889), Paris: P.-V. Stock 1913, 414 pages. か。
- 115 「アイーダ」のフランス語台本に関しては目下特定できず。あるいはイタリア語か。
- 116 「魔笛」のフランス語台本に関しては目下特定できず。あるいはドイツ語か。
- 「サロメ」のフランス語台本に関しては目下特定できず。

Léon Jacques, *Les Partis politiques sous la troisième République*, Paris 1912, 541 pages. パリ大学法学部の博士論文で、第三共和制における政党を概観している。

ルクセンブルク大公国の「官版年鑑」に関しては目下特定できず。

「トリスタンとイゾルデ」のドイツ語台本に関しては目下特定できず。

Mignon: *Oper in drei Akten: Mit Benutzung des Goetheschen Romans „Wilhelm Meisters Lehrjahre“*, von Michel Carré und Jules Barbier; Deutsch von Ferd. Gumbert; Musik von Ambroise Thomas, Berlin: A. Fürstner, 1868, 44 S. か。

Heinrich Herkner, *Die Arbeiterfrage. Eine Einführung*, 5., erweiterte und umgearbeitete Aufl., Berlin: J. Gutentag Verlagshandlung

1908, 761 S. これは何度も改訂されたヘルクナー(当時王立ベルリン工科大学教授)の重要著作で、第五版はグスタフ・シュモラー古稀記念に献呈されている。労働政策の概要から、右派、左派の社会政策理論まで、包括的に整理した大著となっている。

New Japanese Ministry, *Compromise with the Seiyu-Kai*, in: Times, Februar 20, 1913, p. 5.

Paul Helbeck, *Wie das englische Volk sich selbst regiert. Die englische Staatsverfassung und Verwaltung, die politischen Parteien und ihre Führer*, Berlin: Fortschritt (Verl. der „Hilfe“), 1912. これは左派自由主義陣営の帝国議会議員フリードリヒ・ナウマンの経営する出版社から出たイギリス政治紹介で、ナウマンの序文が付されており、著者ヘルベックの妻エミリー・グリーンはイギリス人と推測される。ロイド・ジョージは人物紹介の末尾に九頁に互って紹介されている(S. 68-76)。

Sir Courtenay Ilbert, *Parliament. Its History, Constitution and Practice, new and revised edition*, London: Williams & Norgate, 1922, 256 pages. これはイギリス議会、とりわけ庶民院を解説した小冊子で、議会の歴史、立法過程、議事録について述べられたあと、最後に貴族院が取り上げられている。ただ初版は一九一一年だが、今回の調査では第二版第二刷(一九二二年)しか閲覧できなかった。

Henri Massis/Alfred de Tarde, *Les Jeunes Gens d'Aujourd'hui, présenté par Jean-Jacques Becker*, Paris: Imprimerie nationale, 1995. 今回は復刻版しか閲覧できなかった。著者は共に右派知識人である。

イタリア語辞典は探索不能。Pietro Orsi, *L'Italia moderna. Storia degli ultimi 150 anni fino alla asunzione al trono di Vittorio Emanuele III*, Milano: Uirico Hoepli, 1901, 421 pages.

ニューヨーク発行の月刊政治雑誌。

日記原本には「Geŕrich Altar」とあるが、目下のところ不明。

千葉豊治編『排日問題梗概——加州外國人土地所有權禁止法成立と其善後策』（サンフランシスコ、一九一三年六月）。この書は、日米間の「永久平和」を切望しながらも、アメリカ人の「一部」による日系移民排斥運動を非難する論調で書かれ、この問題を「日本民族」の海外発展能力を測る試金石と看做している。

\* 本論の執筆に際しては、吉野家の御諒解を得て、刊行版の日記で再検討の余地のある箇所限り、非公開の日記原本の複写を拝見することが出来た。御協力頂いた吉野雪子氏に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。